



繁茂する竹は森林整備の難敵。チップパー機で粉碎しバイオマス燃料に



伐った竹を使って子供たちに竹細工の指導



森でのキャンプに子供たちは大興奮

薬草は地元富山の伝統文化。左は薬草講座の様子。下は育てたエゴマで五平餅づくりに挑戦



# クマ対策から始まった里山づくり

立山連峰の秀麗な山並みに抱かれた富山市は、地域の7割を森林が占める緑豊かな町だ。ここを拠点とするNPO法人「きんたろう倶楽部」は、富山の里山を守り、未来に伝える活動に取り組むグループだ。設立のきっかけは2004年秋、県内でクマの市街地出没と人身被害が相次いだことだった。

餌となる木の実が奥山で不足するなど、クマが奥山から人里に降りてくる理由はいくつかがあるが、とりわけ大きな理由の一つが里山の荒廃だ。人が薪を調達したり、炭を焼いたり、キノコや山菜をとったりする里山は、本来、奥山と人里の間にあつてクマのような野生動物と人間を隔てる「緩衝帯」の役割を果たしていた。ところが、人が炭や薪を使わなくなると、里山が放置されて木々が生い茂り、奥山と区別がつかなくなる。その結果、クマが人里に近い場所に現れるようになるというのだ。

クマ問題解決の第一歩は森の手入れをすること——05年11月、里山再生のボランティア組織「きんたろう倶楽部」が発足した。「クマ対策をきっかけに活動するうちに、地域ならではの里山づくりをして

いく流れになりました。富山県の森は民有林が多く、うち3分の2が天然林です。ブナなど、樹種が豊富な天然林を整え、新たな利用法を探る活動を通し、さまざまな団体とのネットワークが広がり、11年、任意団体からNPO法人へ移行しました」と、事務局長を務める松田秀明さんは話す。

現在は、「子供たちの未来に宝を」を合言葉に、「森づくり」「人づくり」「里山づくり」「地域づくり」を4つの柱にして活動を練り広げている。発足時からおこなう「森づくり」事業は、月2回の森林整備活動が中心だ。05年以降、定期的に続けるうちに山林の荒廃が食い止められ、立山連峰から富山湾までを一望できる森が生まれた。森づくりで除伐した枝葉は、北陸電力が収集して火力発電所のバイオマス燃料になる。また、竹林整備で生まれた竹はチップにして、地元農家の堆肥などに活用してもらっている。

地域の特性に着目した「里山づくり」では、薬草事業、和紙事業などを実施している。300年以上の伝統がある「富山のくすり」がテーマの薬草事業は、オウレン、エゴマ、トチュウなど

の薬草を種や挿し木から育て、収穫して効用を試すプロジェクトだ。「さとやま和紙講座」は、和紙の原料になるコウゾの植樹、糊料になるトロロアオイの種まきから和紙づくりを行い、森と人の営みを学ぶ。講師を務める川原隆邦さんは、国指定伝統工芸品「蛭合和紙」（富山県朝日町）の最後の職人だ。

「地域づくり」では、小学校のPTAに協力して、子供たちに竹クラフトを教えたり、呉羽丘陵で毎年夏に開かれる「悠久の森」フェスタで、竹細工の流しそうめんや木道をつくるなど、地域イベントに積極的に参加している。発足から約10年が経ち、子供や若者と交流する活動が増えたため、地元の自然を愛する後継者を育てるのも課題だ。そこで「人づくり」事業として、自然体験リーダー養成講座を開き、子供たちを対象にしたイベントで実践を重ねることにしている。

さらに、小学生を対象にしたESD（持続可能な開発のための教育）プログラム「呉羽丘陵たんけん隊」を、富山県立大学、富山市ファミリーパークと共同で始めた。ESDとは、単なる知識習得ではなく、環境問題などの社

会的な課題を自発的に見だし、解決方法を探り、自分に力をつけていく学習活動のことだ。春夏秋冬、森や生きものと向き合うこの自然体験活動や、人材養成事業は、セブン・イレブン記念財団の助成を得ておこなわれている。「森林整備の活動は、50〜70代が中心ですが、活動の内容によっては若者や子供が増え、年齢層が広がってきました。子供には背伸びを、大人は子供の心に立ち返ってもらい、一緒に楽しくするのが大事。いろいろな事業があるが、結果的にはすべてがきんたろう倶楽部の活動になっていくような、思いに広がって成果をあげる過程を大切にしたい。活動を通していろいろな分野の人と知り合え、刺激になるのがいいですね」（松田さん）

荒れた森が整えられ、タケノコや山菜が採れるようになり、森を訪れる町の人が増えてきた。そこで、車椅子やベビーカーでも気軽に自然散策を楽しめる「呉羽インデペンデンス・ボードウォーク」づくりも開始した。かつてのように、人の暮らしと共にある里山を再生し、伝えたい。きんたろう倶楽部のメンバーの熱意と活動は、一つひとつ、実を結んでいる。

皆でボードウォークを設置、車椅子やベビーカーでも森に行けるようになった



リーダー講習の一環として子供の救命方法を学ぶ



ESDプログラム「呉羽丘陵たんけん隊」の小学生たち

保育園の森づくり活動を支援



地元の小中学校が管理する学校の整備指導もおこなっている